

## シンポジウム

司会 越谷市立病院 放射線科 安河内 浩

生体の形態診断は近年長足の進歩をとげて来ている。そして CT の登場で或るものは必要以上の期待を、又或るものは逆の意見を述べている。

一般に形態診断を行なう医師は狭い領域に閉じこもり勝ちである。それはそれで一つの利点ともなり競走をしながら、見なおさせて来ている。

然し一方では患者の診断に総合的な判断も不可避になっている。超音波診断で簡単にわかる疾患を何枚もの X 線写真をとったり、アイソトープ検査を繰り返したり、又或るときは血管造影のあとでシンチグラムをみればすぐわかるようなことに気付いたり。

このシンポジウムでは、シンチグラムを中心として各種の形態診断の組み合わせを多少なりとも理解する場とし、狭い領域に閉じこもらず、広い視野から患者の診断をする機会の一つにしたいと思っている。

### シンチグラムを中心とした形態診断

1. 肺シンチグラムと X 線写真  
村上 優子（越谷市立病院放射線科）
2. 脾シンチグラムと CT  
西川 潤一（東大放射線科）
3. 肝の断層シンチグラム  
川上 憲司（慈恵医大放射線科）
4. 副腎シンチグラムと血管造影  
久保 敦司（慶大放射線科）
5. 腎シンチグラムと超音波  
平田 経雄（九大放射線部）